

ホストタウンサミットーブルガリア共和国大使からご挨拶

東京 2020 年 2 月 22 日

東京 2020 オリンピックおよびパラリンピック競技大会が段々近づいています。オリンピックという場で日本ならでの技術革新に世界が期待を膨らませて注目しています。

ブルガリアはホストタウンの基本合意を締結した初めての国であることがとても光栄に思います。それは、山形県村山市がブルガリア新体操連盟と締結したことです。

次は、岡山市がブルガリアバドミントン連盟・レスリング連盟・バレーボール連盟と協定締結し、福岡県宗像市がブルガリア柔道連盟と協定締結し、ホストタウンが一つずつ決まってきました。

現在、ブルガリアのホストタウンとして 6 つの自治体が登録されています。村山市、岡山市、宗像市、千葉県市川市、茨城県桜川市、横浜市保土ヶ谷区です。

ホストタウンという非常に有益な協定関係のおかげで、ブルガリア代表チームが各自治体で事前キャンプに参加し、キャンプ期間中にブルガリア新体操代表チームによる公開演技会、保育園・小中学校等の訪問、スポーツ教室等、複数のイベントが実施されてきました。

ブルガリアの代表チームの事前キャンプによって、日本のホストタウンはブルガリアー日本間の友好関係・協力関係が発展し深まり、各ホストタウン自治体がブルガリア国内での知名度が上がり、それぞれかなり人気を集めるようになりました。

過去数年間のホストタウン活動が展開されく中、同時にブルガリアと日本の二国間交流も次のように展開されていきました：

2018年の前半に、ブルガリアは欧州連盟議長国を務め、EU-日本の対話と取組に貢献してきました。なお、2018年1月に安倍総理大臣がブルガリア訪問の際に日・ブルガリアの友好関係・協力関係の新たな一章が始まりました。

2019年はブルガリアと日本の3つの周年、すなわち交流開始110周年、外交関係樹立80周年、外交関係再開60周年を迎える年でした。こちらの「3つの周年」を記念すべく、ブルガリアと日本のイベントで政治交流、経済交流、教育交流、文化交流が活発に行われました。

天皇陛下の「即位の礼」に参列するために2019年10月に来日したブルガリア共和国大統領ルメン・ラデフが安倍総理大臣と首脳会談を行いました。ブルガリアの外務大臣（エカテリナ・ザハリエヴァ）が2019年3月に来日し、日本の外務大臣（河野太郎）が2019年8月にブルガリアを訪問しました。

以上の通りブルガリアと日本が国レベルでのつながりがあり、こちらがホストタウン活動・イベントという地域レベルのつながりにも反映され、ブルガリアと日本の交流が一層活発になりました。

2020年東京オリンピックはみまると近づいております。振り返ると、1964年東京オリンピックにおいてブルガリアが多くのメダルを獲得し好成績を残しました。

1964年東京オリンピック時に2人のブルガリア選手が会場内に結婚式を挙げ、オリンピック会場初の挙式で当時のIOC会長が付添人として新郎のサポート役をしていた、という逸話があります。

ブルガリア選手の2020年東京オリンピック・パラリンピックでの大活躍を期待しております。

オリンピックに向けて取り組めるようにブルガリア選手に素晴らしい場所で整った練習環境を提供し交流いただいたホストタウン6自治体に感謝いたします。

オリンピック競技中にブルガリアのホストタウンハウスが開催される可能性があることは心強いことです。また各自治体の皆様が、オリンピック競技中にブルガリア選手を積極的に応援していただけたら大変光栄に思います。

ホストタウンの基で築いてまいりました友好関係・協力関係の強い絆が2020年東京オリンピックだけにとどまらず、文化交流、教育交流、貿易交流・経済交流、人と人との交流へと広範囲の交流に発展させていきたいと考えております。これらの交流はブルガリアと日本間の関係の基盤拡大と強化につながることでしょう。私共がそれに向けて努力いたします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功を心よりお祈りしております。